

聞いて！見て！触って！

# 「看取りのシミュレーション」

## と 身近な医療機器

11月26日(金)27日(土)、姫路メディカルシミュレーションセンターひめ mariaにて上記研修会を行いました。看取りについての講演後、実際にシミュレーション人形や医療機器を“聞いて 見て 触って”体験していただきました。密をできるだけ避けるため人数制限を行い、体験時は全員フェイスシールドを着けました。54名の方にご参加いただきました。

### 講師

訪問看護ステーション 看護の力  
安藝 奈々枝 氏

亡くなるまでのパターンの概念、看取りの前に起こる様々な変化、ご家族への接し方などについて事例を含め、ご講演いただきました。



### 聞いて・見て・触って納得！ (各ブースに分かれて体験)

シミュレーション人形

ストーマ装具 (パウチなど)

膀胱留置カテーテル



看取り前の兆候を体験

吸引



パウチを手に取り体験

経管栄養



固定水を入れてみる

在宅酸素



吸引をする



胃の中はこうなっている



お手入れ方法も説明あり

### 参加者の声 (抜粋)

アンケートへのご協力ありがとうございました。

- ・状態が変わっていくときに、家族への説明が必要なこと、突然の最期が一番ショックなことなど説明いただき、自分がどう向き合っていくかを整理しておこうと思いました。
- ・具体的な事例を聞くことで、ご家族の心境などをイメージしやすかったです。
- ・本人や家族への声かけ対応に悩むことがあったが、研修を受け、少しでも安心していただける対応をイメージできた。心身の些細な変化を感じ取れる関りをもっていきたい。
- ・小さなサインも見逃さずに、少しでも苦痛が和らぐような介護をしたいと思います。
- ・実際の物品を使っての説明は大変わかりやすかったし、細かく丁寧に教えてもらえた。
- ・人体模型による死の兆候のシミュレーションはわかりやすかったし、知識として残りやすい。知識があれば家族や医療職への確かな伝え方ができると思った。
- ・ご家族に寄り添うことの大切さを感じました。また、少しでも苦痛を取り除く支援を心掛けたい。
- ・看取りの過程を知ることで、福祉職でもできることがあることが理解でき、他職種としっかり連携をとっていきたいと思いました。